

# これで勝負

矢木コーポレーション  
(長野市)

## 太陽光発電を利用した街路灯

街路灯の柱に、太陽光発電パネルが垂直に付いている。パネルが太陽の方向を向いていなくても、反射光を表裏両面に受け、季節を問わず安定的な発電が可能。両面太陽光発電を利用した矢木コーポレーション(長野市)の防災対応型街路灯「TOMORIE(トモリエ)」シリーズは、国内外で販路が広がり、商品群も多様化している。

東日本大震災の5カ月後の2011年8月、両面太陽光発電素子を強化ガラスで挟む技術を持つ旭硝子(東京)と協力し、最初のオリジナルLED(発光ダイオード)街路灯を開発。被災した岩手県北上市に贈った。柱内部に蓄電池を入れ、100時間の非常用電源コンセントも設置。その後、大きな余震で停電した際に「携帯電話やパソコンの電源が確保できて大変役に立った」と喜ばれ、同市から17基

## 災害時の電源 観光向け拡大も

を受注した。

外から電力を供給せずに電灯が付き、発電した電気が災害時に電源となる。震災後の防災意識の高まりを受け、全国の自治体の庁舎、学校や公園などの避難所向けに引き合いが相次いだ。シリーズの名称は社内で公募し、災害時に地域と人々の心に明かりをともす一との願いを込めて「トモリエ」とした。

災害や各地の多様な自然環境に対する耐久性が求められ

るが、元々、同社は交通標識の製造販売が専門で、衝撃や風雨への耐久性が必要な構造物の設計が得意。冬に雪が降る地域でも、雪が積もると発電量が落ちる水平型の装置と違い、周囲の雪面の反射を受けて発電できる。

顧客のニーズを受け、携帯電話の充電器を取り付けたタイプ、屋根にパネルを入れたバス停型も開発した。国が、外国人旅行者への対応と防災の両面を見据えて全国の公立学校や公園など約3万カ所に公衆無線LAN「Wi-Fi

Fi(ワイファイ)」の整備方針を掲げていることを踏まえ、ワイファイ関連機器を付けたタイプも設計を試みている。

売上高のうち、太陽光事業が占める割合は2割程度。岩佐雅登営業開発部長は「外国人観光客の増加に伴い、観光地や街中で携帯電話の充電需要は増え続ける」と見通し、「ワイファイ対応でさらに付加価値を高めながら、全国で販売を強化していく」と同事業の拡大に意欲を示した。



矢木コーポレーションが設計、販売する街路灯「トモリエ」。両面で太陽光発電できるパネルを備える。長野市内

矢木コーポレーション 1966(昭和41)年創業。道路の案内標識、ガードレール、カーブミラーの設計、製造、販売のほか、路面の補修、白線の標示、自転車道のカラー舗装などを手掛ける。標識の表面に貼る反射シートでは、国内最大手スリーエムジャパン(東京)の県内唯一の代理店。2016年1月期の国内売上高は約58億円。